

国土交通省総合政策局
情報政策課交通経済統計調査室
平成28年3月31日(木)公表

トラック輸送情報

平成28年1月分

平成28年2月分は平成28年5月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 廣中、桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成28年1月分）

平成28年3月31日
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室
担当：廣中、桑原 内線28723
直通：03-5253-8346
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

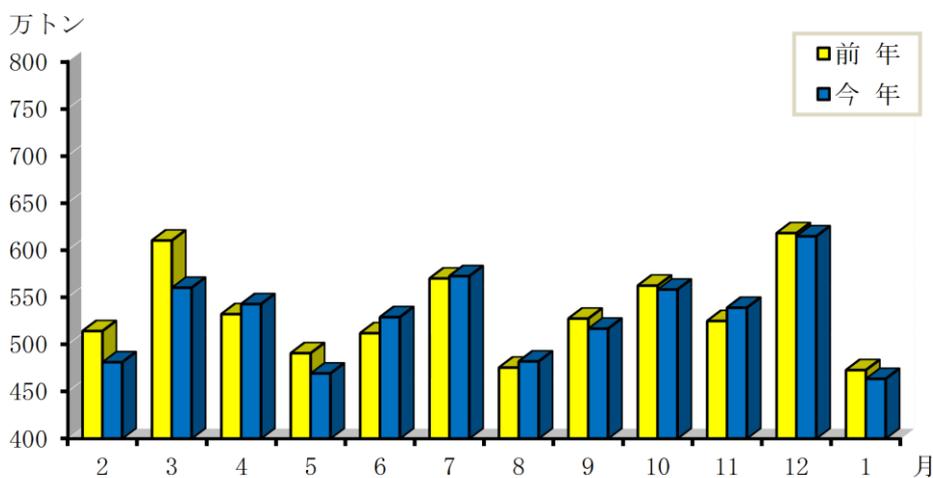
(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,635,633トンで、前月と比べ総輸送量が約1,511千トン減少したため、前月比75.4%（季節調整済み106.7%）となり、前年同月との比較では、約93千トン減少したため、前年同月比98.0%の実績であった。

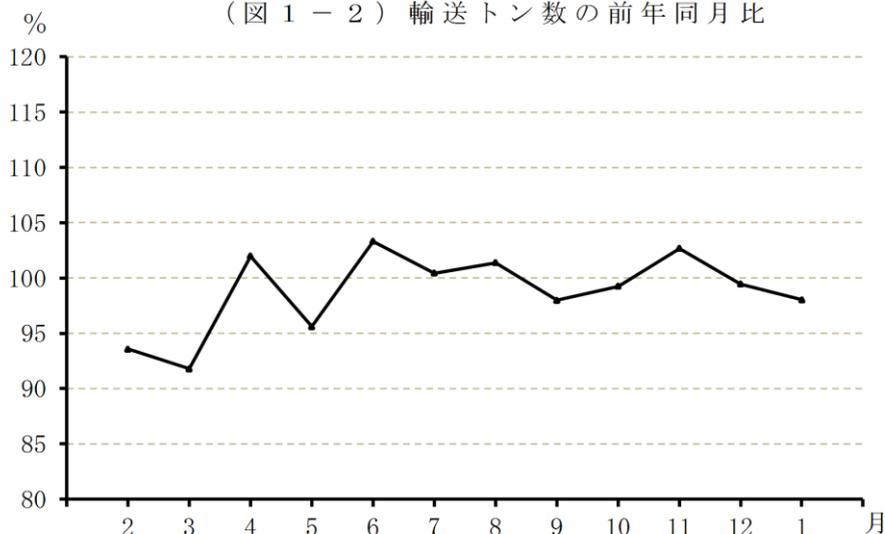
なお、平均稼働日数は21.9日で、前月と比べ1.4日減少し、前年同月との比較では、0.4日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、211,673トンで、前月と比べ約52千トン減少したため、前月比80.2%となり、前年同月との比較では、約0千トン減少したため、前年同月比99.8%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

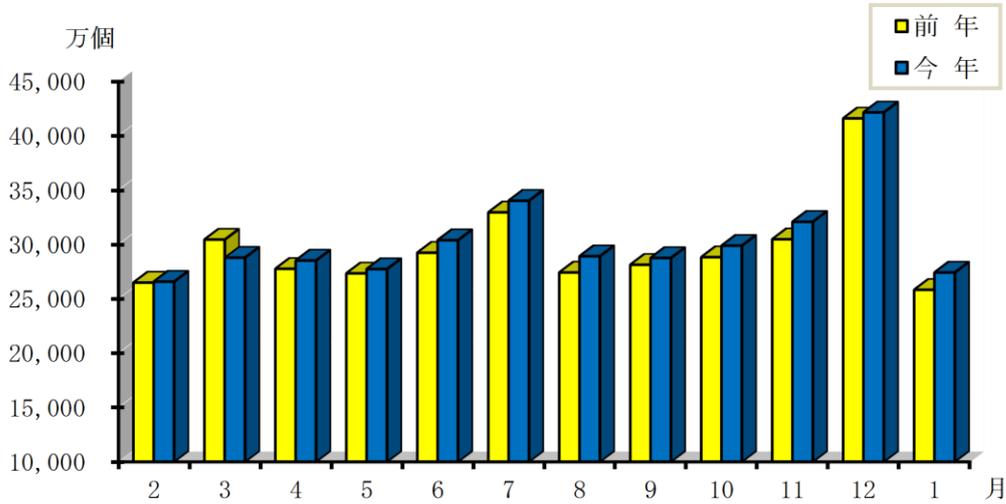


(2) 宅配便の概況

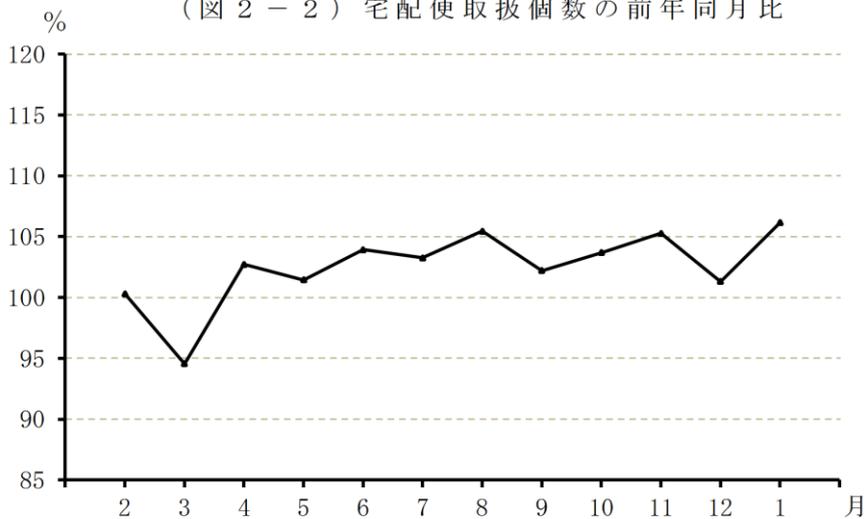
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 274,211 千個で、前月と比べ 約 147,243 千個減少したため、前月比 65.1% (季節調整済み 106.5%) となったものの、前年同月との比較では、約 15,894 千個増加したため、前年同月比 106.2%の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月との比較で見ると、品目別では、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。主な減少要因は、工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「化学工業品」、「食料工業品」で見られた。地域別では、「関東」、「北陸信越」、「中部」、「近畿」、「中国」の各地方の貨物減が見られた。

前年同月との比較で見ると、品目別では、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。主な減少要因は、工場・生産地からの貨物減であった。地域別では、「関東」、「中部」、「近畿」、「中国」の各地方の貨物減が見られた。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品			9	4	4		
						野菜、果物	4	
	金属製品			14	5	1		
	機械			11	7	1		
							愛知、大阪、近畿	4
	化学工業品			9	10	2		
						合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、関東、北陸信越、中部、近畿地方、中国	4, 7
繊維工業品			13	7	1			
						関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国	4	
食料工業品			8	6	5			
					その他の食料工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7	
日用品			7	10	4			
					その他の日用品	全国	4, 8	
その他			7	9	4			
					宅配便、その他(百貨店配送品)	全国	2, 4, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	10	4	1		
							4	
	金属製品			1	15	4		
							4	
	機械	1	2	9	6	1		
							関東地方、中部地方、大阪、近畿、中国	4
	化学工業品			2	11	7	1	
							大阪、中国	4
繊維工業品			1	13	7			
						神奈川、関東、中部、中国	4	
食料工業品			1	14	2	2		
					その他の食料工業品	中国		
日用品			1	12	7	1		
					玩具	関東	4	
その他			3	10	5	2		
					その他(百貨店配送品)	神奈川		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者800社/調査対象事業者数1,012社)の輸送量は、前月比 88.4%、前年同月比 94.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	94.4 %	96.4 %	92.9 %	93.6 %	84.2 %	97.6 %	93.9 %	94.9 %	101.3 %	91.5 %	107.3 %	
前 月 比	88.4 %	92.6 %	84.9 %	95.4 %	81.9 %	92.6 %	85.8 %	88.0 %	88.2 %	86.5 %	84.6 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 92.6%、対前年同月比 96.4%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「穀物」が、季節的需要増により「その他の石油製品」、「廃棄物」が、天候の影響により「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」、「砂利・砂・石材」及び「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物減により「水産品」、「木材」が、また、「石炭」、「その他の窯業品」、「食料工業品」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 84.9%、対前年同月比 92.9%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物減により「食料工業品」、「日用品」が、季節的需要減により「紙・パルプ」、「食料工業品」及び「取り合せ品」が、また、「水産品」、「砂利・砂・石材」、「セメント」、「揮発油」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降は増加傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 95.4%、対前年同月比 93.6%であった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 81.9%、対前年同月比 84.2%であった。品目別では、建設関連の需要減により「その他の窯業品」が、季節的需要減により「化学肥料」、「食料工業品」が、また、「揮発油」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 92.6%、対前年同月比 97.6%であった。品目別では、「その他の窯業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 85.8%、対前年同月比 93.9%であった。品目別では、「金属製品」、「機械」、「紙・パルプ」、「食料工業品」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降は増加傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 88.0%、対前年同月比 94.9%であった。品目別では、季節的需要減により「その他の石油製品」、「食料工業品」が、輸出入の貨物減により「機械」が、また、「木材」、「砂利・砂・石材」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 88.2%、対前年同月比 101.3%であった。品目別では、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「機械」が、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」及び「食料工業品」が、季節的需要減により「野菜・果物」、「紙・パルプ」及び「日用品」が、また、「水産品」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降は増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 86.5%、対前年同月比 91.5%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物減により「鉄鋼」、「紙・パルプ」が、季節的需要減により「野菜・果物」が、また、「穀物」、「木材」、「機械」、「セメント」、「その他の石油製品」、「食料工業品」、「金属くず」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 84.6%、対前年同月比 107.3%であった。品目別では、建設関連の需要減により「機械」が、また、「取り合わせ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	2	1									3
	減		2		1				2	3		8
2. 野菜・果物	増		2	1					1			4
	減	4	3		1			1	6	5		20
3. その他の農産品	増	1										1
	減	2									1	3
4. 畜産品	増											
	減									1		1
5. 水産品	増									1		1
	減	3	2						2	2		9
6. 木材	増	1	1		2			1	1	1	1	8
	減	4	2					3		4	1	14
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	2	1									3
9. 金属鉱物	増							1				1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	1								2		3
	減	9	3		1	1		2	3	1		20
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1			1					1	4
	減		1					1	2			4
12. 鉄鋼	増		2		1			2			1	6
	減		3					1	2	2	1	9
13. 非鉄金属	増										1	1
	減		1				1			1		3
14. 金属製品	増				1				1	2		4
	減			1	2		2			3		8
15. 機械	増		1	2	1	2		1	1			8
	減	1	1		1	1	2	5	4	3	2	20
16. セメント	増				1							1
	減	7	3					1	2	4		17
17. その他の窯業品	増									1		1
	減	2	1		3	2			1	1		10

運輸局		品目	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			信							計
18.	揮 発 油	増								1			1
		減		2		2			1				
19.	そ の 他 の 石 油 製 品	増	4		1				1				6
		減	2			2			4	1	3		12
20.	コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増											
		減	1										1
21.	化 学 薬 品	増		1						1			2
		減		1						2	1		4
22.	化 学 肥 料	増									1		1
		減	1	1		2				1			5
23.	そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	1				1		1				3
		減			1	1		1	2				
24.	紙 ・ パ ル プ	増	1	1						1			3
		減	2	5		1		2	1	5	6	1	23
25.	織 維 工 業 品	増							1				1
		減		1			1						2
26.	食 料 工 業 品	増		1		1			1	1			4
		減	2	9		3		3	3	4	4	1	29
27.	日 用 品	増										1	1
		減	2	4		1		3	2	2		2	16
28.	そ の 他 の 製 造 工 業 品	増		1		1							2
		減	1	2	1		2	1			1		8
29.	金 属 く ず	増		1									1
		減									2	1	3
30.	そ の 他 の く ず も の	増											
		減	1										1
31.	動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	1										1
		減	4	2		1			1		2		10
32.	廃 棄 物	増	17						1	1			19
		減	2	1					1	2			6
33.	輸 送 用 容 器	増											
		減		1									1
34.	取 り 合 せ 品	増			1								1
		減	1	2						1	1	2	7
35.	そ の 他	増	5	1	1	6			1	1	3		18
		減	1	3		6	1	7	11	2	5		36